

新幹線地本申 | 2号

その2

「2021年度新幹線総合車両センター事業計画に関する申し入れ」

団体交渉実施！！

新幹線地本は3月24日、表題について新幹線統括本部と団体交渉を行いました。主な議論は以下の通りです。

- 第4項 各科における技術・技能継承を確実なものとするために、人材育成に関しての将来的なビジョンを明らかにすること。
- 回答：新幹線ネットワークを活用し、引き続き安全・品質のレベルアップとメンテナンス技術の向上に取り組んで行く考えである。

- ・人材育成については同じ形をずっと踏襲するのではなく、その都度の課題に応じて変化させていく。
- ・JR東日本として考える人材育成像があり、そのなかの車両メンテナンス社員の将来像がある。
- ・所内異動は、技術の基礎ができた段階で視野を広げてもらうために実施する。ただ、技術技能面だけを見て判断しているわけではないことはご理解いただきたい。
- ・厳しい要員のなかで、人材育成に関して現場に苦勞をかけているところは承知しているが、今後を見据えるとサイクルを早めなくてはならないとも感じている。

【組合からの意見】

- ・異動に関するコミュニケーションは当該本人に留まらず、関係個所へのフォローをしっかりと行う事。
- ・見習い終えてすぐに他の担務に就かせるのではなく、技能を習熟する期間を確保すること。
- ・人材育成について様々な場で議論してきたのにも関わらず一向に改善されていないのは、会社全体として人材育成について問題があるということを指摘する。

- 第5項 自主応募型の各種プロジェクト（海外研修・技術アカデミー・ALFA-X走行プロ等）への参加状況を鑑み、適正な要員の配置を行うこと。また、所内における世代交代を円滑にするため、所内異動について年度毎に規模を明らかにすること。

回答：必要な要員は確保していく考えである。なお新幹線総合車両センター内の異動については、業務量や社員の育成等を総合的に勘案し行うこととなる。

- ・所内の異動については年度で規模が決まっているわけではないが、各科の退職者等の計画や技術技能の維持の観点から、年度単位で進めていくものはその都度検討している。
- ・新規や社会人採用に加え、作業の効率化等の対応を進めながら必要な要員を確保していく。
- ・必要な要員については、幹総に限らず車両メンテナンス職場全体として考えていくものになる。
- ・輸送管理科の業務体制の変更についても、作業の効率化を図ってきたなかで実施する運びになった。
- ・今後も、作業の効率化を進めていくなかで、組や班での体制変更はありえる。

～その3へ続く～